

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る

事後調査報告書

(令和元年6月分【護岸建設工事中・埋立中の共通調査②】)

【陸域生態系（鳥類）】

国土交通省 近畿地方整備局

大阪市 港湾局

大阪湾広域臨海環境整備センター



# 目 次

## I 事後調査の概要

- 1. 調査概要 ..... I - 1
- 2. 工事の実施状況 ..... I - 2
- 3. 調査結果の概要 ..... I - 3

## II 事後調査結果

- 1. 陸域生態系（鳥類） ..... II - 1



## I 事後調査の概要



## 1. 調査概要

令和元年6月（陸域生態系（鳥類））の事後調査の概要は表-1に、調査地点の位置は図-1に示すとおりである。

なお、「大阪湾新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく調査として令和元年度は令和元年5月、6月、8月、令和2年2月に実施する。

表-1 事後調査の概要（令和元年6月）

埋立地周辺における調査

(1) 陸域生態系（鳥類）表-1

調査項目	調査地点・範囲	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4点 【a, b, c, d】	6月4日	4回／年(2年おきに実施) (5月、6月、8月、2月)

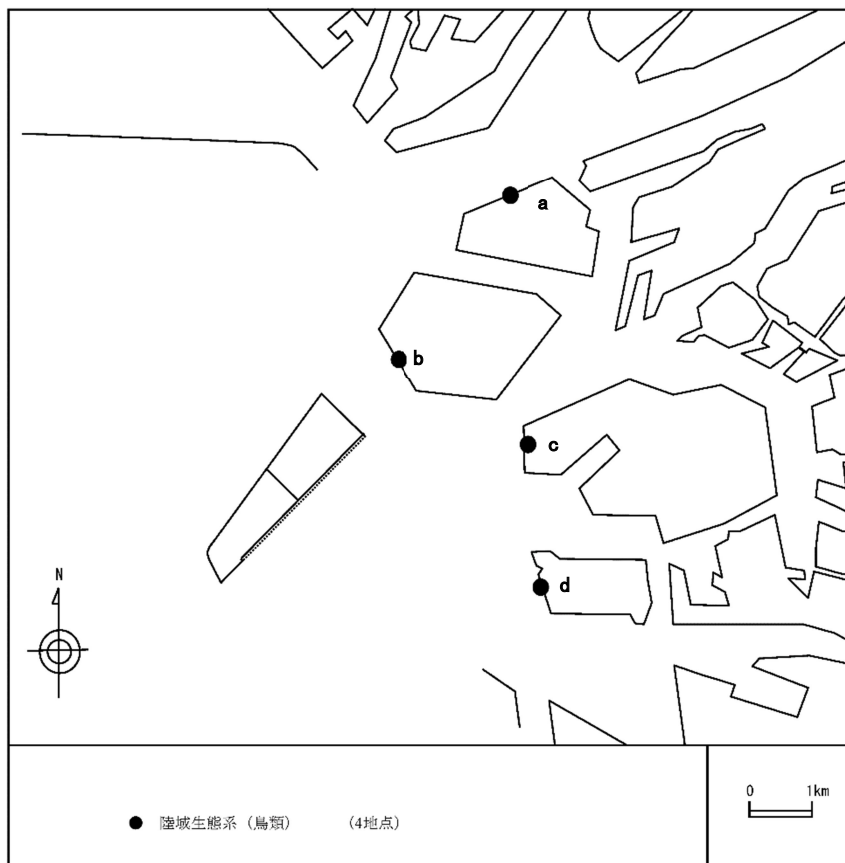
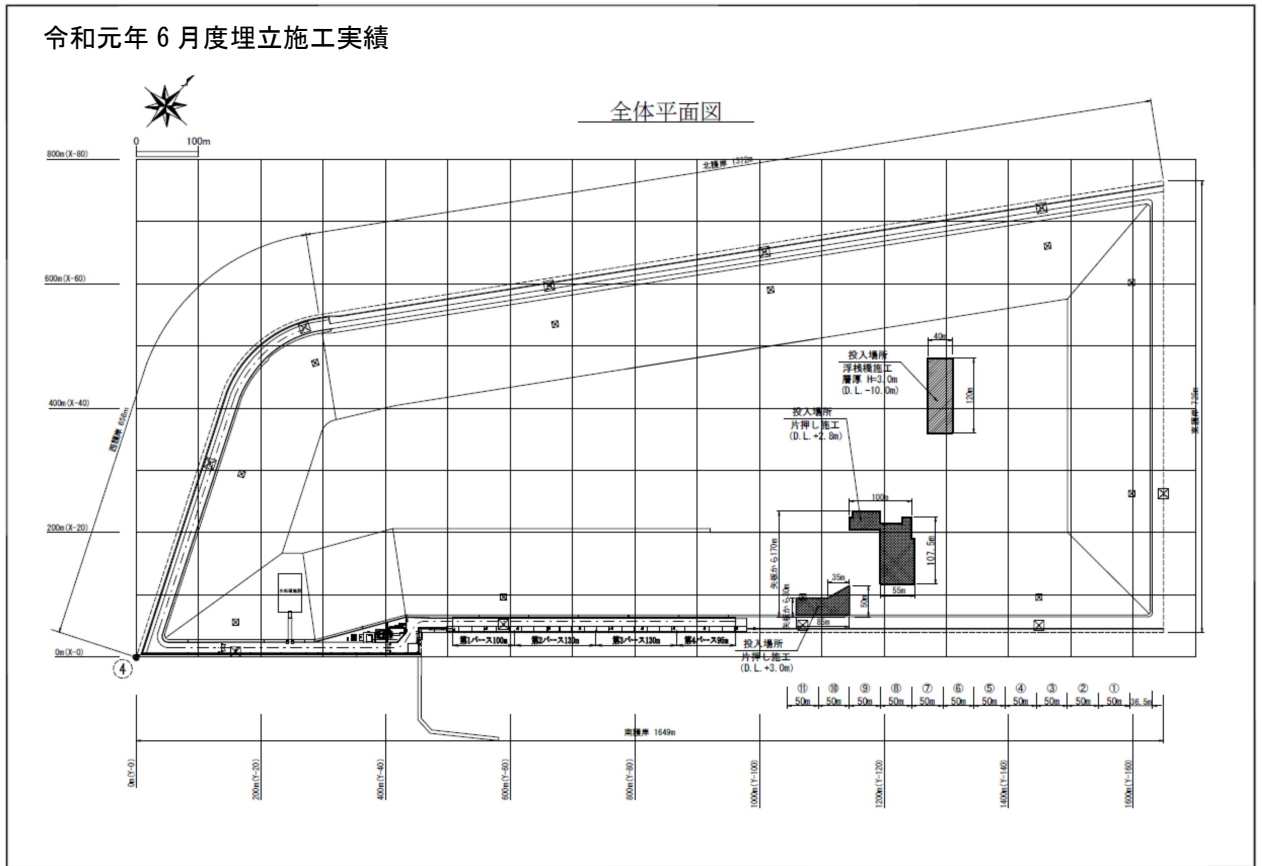


図-1 陸域生態系（鳥類）の調査地点（令和元年6月）

## 2. 工事の実施状況

令和元年6月の工事の実施状況は、図-2に示すとおりである。



埋存量(m <sup>3</sup> )	進捗率(%)
5,171,282	37.0

埋立容量(計画量) : 13,975,000 m<sup>3</sup>

図-2 工事の実施状況 (大阪沖処分場平面図)



### 3. 調査結果の概要

#### 埋立地周辺における調査

##### (1) 陸域生態系（鳥類）〔陸域生態系（鳥類）様式第1～3号（埋立地関連）〕

鳥類の出現種類数は、4地点合計で8目17科25種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点bが最も多く123羽であり、次いで調査地点dの50羽、調査地点aの49羽、調査地点cの44羽の順であった。

調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点cおよびdが最も多く14種であり、次いで調査地点bの11種、調査地点aの9種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点bにおける主要な出現種は、ハシブトガラス（スズメ目カラス科）、カルガモ（カモ目カモ科）、カワウ（ペリカン目ウ科）、コチドリ（チドリ目チドリ科）、シロチドリ（チドリ目チドリ科）、ツバメ（スズメ目ツバメ科）であった。

事業実施前（平成10年6月：調査地点の位置は、平成29年度調査の調査地点に同じ）に実施した鳥類調査の結果は、4地点合計で9目19科26種であり、事業実施前と比べて同程度の種類が確認された。

事業実施前調査結果を表-2に示す。

陸域生態系（鳥類）表-2 事業実施前調査結果

区分	平成9年8月	平成10年2月	平成10年5月	平成10年6月	
出現状況	目	8	8	10	9
	科	18	17	21	19
	種	35	37	37	26
主な出現種 (個体数、 組成比率)	ウミネコ (35.4%)	ヒドリガモ (18.1%)	トウネン (32.2%)	ムクドリ (42.6%)	
	トウネン (27.2%)	ホシハジロ (11.0%)	コアジサシ (8.4%)	スズメ (12.3%)	
	カワウ (8.8%)	キンクロハジロ (7.6%)	シロチドリ (7.3%)	ツバメ (12.3%)	
	カルガモ (7.1%)	カワウ (6.1%)	アジサシ (4.5%)	コアジサシ (9.6%)	
	スズメ (4.5%)	スズメ (5.0%)	ハシブトガラス (4.3%)	ドバト (6.5%)	

調査地点		a	b	c	d	合計
平成9年8月	種類数	16	7	25	10	35
	個体数	103	524	281	91	999
平成10年2月	種類数	13	17	27	10	37
	個体数	321	456	964	107	1,848
平成10年5月	種類数	19	16	27	17	37
	個体数	73	106	517	126	822
平成10年6月	種類数	15	10	19	15	26
	個体数	130	138	175	109	552
年間	種類数	32	32	47	27	60
	個体数	627	1,224	1,937	433	4,221



## II 事後調查結果



陸域生態系（鳥類）様式第1号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）〔令和元年6月分〕

調査日：令和元年6月4日

No.	目	科	種	渡り 区分	地点別出現個体数				計
					a	b	c	d	
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥		2			2
2	ペリカン目	ウ科	カワウ	留鳥	26	12	6	18	62
3			ウミウ	冬鳥				1	1
4	コウノトリ目	サギ科	ダイサギ	留鳥			1	1	2
5			アオサギ	留鳥	1		4	3	8
6	カモ目	カモ科	カルガモ	留鳥	4	22	5	2	33
7	ツル目	クイナ科	バン	留鳥			2		2
8			オオバン	留鳥			1		1
9	チドリ目	チドリ科	コチドリ	夏鳥		3	1		4
10			シロチドリ	留鳥		3	1		4
11		カモメ科	ユリカモメ	冬鳥		1			1
12			セグロカモメ	冬鳥		1		11	12
13			ウミネコ	留鳥				2	2
14			コアジサシ	夏鳥	8				8
15	ハト目	ハト科	ドバト	籠脱				2	2
16	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	旅鳥		2			2
17		ツバメ科	ツバメ	夏鳥		3	3		6
18		セキレイ科	ハクセキレイ	留鳥			1	2	3
19		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	3		2		5
20		ウグイス科	セッカ	留鳥		1		1	2
21		シジュウカラ科	シジュウカラ	留鳥	1				1
22		ハタオリドリ科	スズメ	留鳥	2			3	5
23		ムクドリ科	ムクドリ	留鳥	2		13	2	17
24		カラス科	ハシボソガラス	留鳥			2	1	3
25			ハシブトガラス	留鳥	2	73	2	1	78
合計（8目17科25種）				目数	5	5	6	6	8
				科数	9	9	10	10	17
				種類数	9	11	14	14	25
				個体数	49	123	44	50	266

注) 1. 分類及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成28年度生物リスト」（国土交通省 2016）に従った。

2. 渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2016」（(財)日本野鳥の会大阪支部、2016）に従った。

陸域生態系（鳥類）様式第2号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）[令和元年6月分]

調査日：令和元年6月4日

区分	地点別出現数					
	a	b	c	d	計	
出現状況	目	5	5	6	6	8
	科	9	9	10	10	17
	種	9	11	14	14	25
出現個体数	49	123	44	50	266	
主な出現種 （個体数、 組成比率）	カワウ (26羽、53.1%) コアジサシ (8羽、16.3%) カルガモ (4羽、8.2%) ヒヨドリ (3羽、6.1%) スズメ (2羽、4.1%) ムクドリ (2羽、4.1%) ハシブトガラス (2羽、4.1%)	ハシブトガラス (73羽、59.3%) カルガモ (22羽、17.9%) カワウ (12羽、9.8%) コチドリ (3羽、2.4%) シロチドリ (3羽、2.4%) ツバメ (3羽、2.4%)	ムクドリ (13羽、29.5%) カワウ (6羽、13.6%) カルガモ (5羽、11.4%) アオサギ (4羽、9.1%) ツバメ (3羽、6.8%)	カワウ (18羽、36.0%) セグロカモメ (11羽、22.0%) アオサギ (3羽、6.0%) スズメ (3羽、6.0%) カルガモ (2羽、4.0%) ウミネコ (2羽、4.0%) ドバト (2羽、4.0%) ハクセキレイ (2羽、4.0%) ムクドリ (2羽、4.0%)	ハシブトガラス (78羽、29.3%) カワウ (62羽、23.3%) カルガモ (33羽、12.4%) ムクドリ (17羽、6.4%) セグロカモメ (12羽、4.5%)	

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位5種を示した。

陸域生態系（鳥類）様式第3号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）〔令和元年6月分〕

調査日：令和元年6月4日

調査地点		a		調査地点		b	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	ウ科	1	53.1%	1	カラス科	1	59.3%
2	カモメ科	1	16.3%	2	カモ科	1	17.9%
3	カモ科	1	8.2%	3	ウ科	1	9.8%
4	ヒヨドリ科	1	6.1%	4	チドリ科	2	4.9%
5	ハタオリドリ科	1	4.1%	5	ツバメ科	1	2.4%
5	ムクドリ科	1	4.1%	6	カイツブリ科	1	1.6%
5	カラス科	1	4.1%	6	カモメ科	2	1.6%
8	サギ科	1	2.0%	6	ヒバリ科	1	1.6%
8	シジュウカラ科	1	2.0%	9	ウグイス科	1	0.8%

調査地点		c		調査地点		d	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	ムクドリ科	1	29.5%	1	ウ科	2	38.0%
2	ウ科	1	13.6%	2	カモメ科	2	26.0%
3	サギ科	2	11.4%	3	サギ科	2	8.0%
3	カモ科	1	11.4%	4	ハタオリドリ科	1	6.0%
5	カラス科	2	9.1%	5	カモ科	1	4.0%
6	クイナ科	2	6.8%	5	ハト科	1	4.0%
6	ツバメ科	1	6.8%	5	セキレイ科	1	4.0%
8	チドリ科	2	4.5%	5	ムクドリ科	1	4.0%
8	ヒヨドリ科	1	4.5%	5	カラス科	2	4.0%
10	セキレイ科	1	2.3%	10	ウグイス科	1	2.0%

注) 優占率は四捨五入した値を表示しており、合計は100.0%にならないことがある。